

かじき がっせん 加治木くも合戦

加治木くも合戦は、島津義弘が文禄・慶長の役に参戦した際に、陣中で兵士を元気づけ、励ますためにこがねぐもを集めて戦わせたのが始まりです。400年もの歴史があり市の地域無形民俗文化財に登録されています。くも合戦には、合戦の部だけでなく優良ぐもの部があります。優良ぐもの部は、くもの美しさを競います。

足が長く、産卵直後のくもが強いとされています。

加治木くも合戦は、毎年6月の第3日曜日に始良市加治木福祉会館で行われます。



しげとみ かいがん 重富海岸

約3万年前の巨大噴火でできたカルデラに海水が流れ込んでできたのが錦江湾です。火山活動や黒潮の影響を受けて特異な環境の海岸です。だから、多種多様な生物が生息しておりここにはかないないめずらしい生物もいます。また、一度は荒れ果ててしまい生物もいなくなり、利用者もいなくなりましたが、地域の住民の協力を得て海岸清掃を行い、きれいな海岸に生まれ変わりました。



しんでん きだようすい 新田をもたらした木田用水

池田助右衛門の熱い思いにより、瀬貫の切通から流れ落ちた水は下の地図のように木田用水として整備され、加治木町木田地区に新しい水田ができました。



たいこ おど 太鼓踊り

太鼓踊りは島津義弘が文禄・慶長の役の凱旋記念として、家臣に習得させたといわれています。疫病や災厄をもたらす悪霊を送り出すといわれています。県内にも広く分布する郷土芸能ですが、始良市の太鼓踊りは特にきらびやかな装飾です。現在も8地区の保存会が神社へ奉納しています。また、加治木町では毎年8月16日、蒲生町では8月21日に太鼓踊り大会が開催されています。

